

第1回 データビジネス創造コンテスト表彰式

Data business creation contest

賞金総額 50万円!



最優秀賞を受賞した長野県立厩代高等学校の皆さんの受賞後インタビューの様相



最優秀賞を受賞した長野県立厩代高等学校の皆さんの喜びが伝わってくるようです

去る4月19日午後1時半から、慶應義塾大学三田キャンパスで開催された《第1回データビジネス創造コンテスト》の審査会の結果発表と表彰を行う表彰式が、大手町の全国農業協同組合中央会などが入るJAビル4階会議室で開催されました。

隣接の日本経済新聞社日経ホールで開催の《BigData Conference 2014 Spring》の一環として開催されたもので、関係者だけではなく Conference 出席者や一般参加者も参加して賑やかに行われました。

主催者を代表して慶應義塾大学環境情報学部長の村井純教授が開会の挨拶を行った後、表彰が始まりました。

NTTコムオンラインマーケティング・ソリューションズ代表取締役社長の塚本良江氏によるNTTコムオンライン賞、続いて高校生賞、未来創造賞、審査委員特別賞、優秀賞、最優秀賞の順に発表され、表彰状と賞金、副賞などが授与されました。

また優秀賞と最優秀賞の受賞者インタビューが行われ、表彰式は終了しました。

《第1回データビジネス創造コンテスト》表彰式の模様



優秀賞を受賞した慶應義塾大学大学院健康マネジメント科の皆さんの受賞後インタビューの様相



協賛企業でもあるアクセントの工藤卓哉氏より優秀賞を授与される皆さんも大喜び

優秀賞は慶應義塾大学大学院健康マネジメント科の芥川さん、佐藤さん、毛利さん、渡辺さんの4人、お一人は出産を控えているとか、《我が子との幸せな時間のために》～ソーシャルメディアを使用した育児の実態の把握と対応に関する分析～をテーマにプレゼンテーションを行い《優秀賞》に輝きました。

《第1回データビジネス創造コンテスト》は慶應義塾大学SFC研究所のデータビジネス創造ラボとNTTコム・オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社が主催し、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所が文部科学省委託事業「データサイエンティスト育成ネットワークの形成」プログラムの一環として実施するものです。

アクセント株式会社、株式会社ブレインパッド、SAS Institute Japan 株式会社、株式会社電通、日経ビックデータラボが協力、情報処理学会情報処理教育委員会、日本統計学会、応用統計学会、データサイエンティスト協会が後援しました。

ビックデータ時代を迎えて、データを活用して未来を創造するデータサイエンティストの人材育成が活発になっていることから、実際にデータを分析し、新たな知の抽出や価値の創出を競う場として開催されるコンテストで、短期間の募集にも関わらず全国から55件の応募があり、予選選考後の12件が先の審査会でプレゼンテーションを行ったものですが、審査員の予想を超える素晴らしい内容で、選考では審査員全員が悩む場面もあったとか。

《第1回データビジネス創造コンテスト》表彰式の模様



去る4月19日に開催された審査会の模様、エッセンスをビデオで紹介



受賞者に授与されるトロフィー、賞金と表彰状



《第1回データビジネス創造コンテスト》の初めての表彰式に村井表彰委員長はじめ委員会の先生方もどこか緊張気味。



村井委員長の開会挨拶の後、データビジネス創造・ラボについて説明する慶應義塾大学大学院環境情報部の森川富昭准教授。

《第1回データビジネス創造コンテスト》表彰式の模様

《NTTコム オンライン賞》・東大大学院情報理工学系研究科/竹村研究室



《NTTコムオンライン賞》をNTTコムオンライン・マーケティング・ソリューションズ株式会社の代表取締役社長・塚本良江氏より表彰を受ける東京大学大学院情報理工学系研究科数理情報学専攻の藤山さん、株田さん、松井さんと竹村教授。



「投稿数時系列データのベキ減衰モデルを用いた消費税増税への影響の評価」をテーマの提案に“Buzz Finder”の特性を活かした極めて現実的なテーマに表彰状を授与した塚田社長が一番嬉しそうですね。

《高校生部門賞》……………熊本県立玉名高等学校



ブレインパッドの佐藤洋之氏より《高校生部門賞》を授与される熊本県立玉名高等学校の友田さん、小川さん、三嶋さん3人を代表して友田さんが受領。佐藤氏から一言コメントされ終始和やかでした。



「交通の一体化(^-^)★」をテーマに直近の川崎での電車脱線事故を題材に、発生後、利用者にどのような情報を提供したら良いか、“つぶやき”を分析したアイデアでした。

《未来創造賞》……………九州工業大学廣瀬研究室



《未来創造賞》を慶應義塾大学の古谷知之准教授から授与された九州工業大学廣瀬研究室の小柳さん。自分でもビックリと嬉しさを隠しきれない様子です。



「Twitterで潜伏期間を早期推定」をテーマに感染症の対策法についてのアイデアは専門家を唖らせました。受賞者は右側です、念のため。

《第1回データビジネス創造コンテスト》表彰式の模様

《審査委員特別賞》……………慶應義塾大学大学院経営管理研究科



慶應義塾大学大学院の渡辺美智子教授より「審査委員特別賞」を授与されたのは慶應義塾大学大学院経営管理研究科の村上さん。



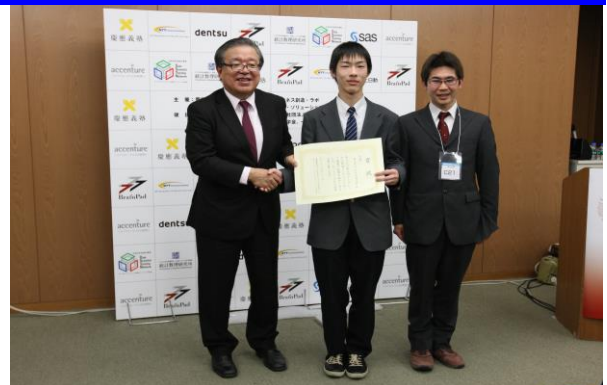
“Buzz Finder”を活用してソーシャルメディアを解析し《地域ブランド構築と地域活性化のためのマネジメント・サービス》を実現しようと取組んだ内容でした。

《入賞》……………岡山県立邑久高等学校



続いて村井審査委員長より、最終審査に残り、プレゼンテーションを行った皆さんに《入賞》が授与されました。

岡山県立邑久高等学校の鶴島君、東山君、太田君の、共に“花粉症”に悩まされている3人がプレゼンテーションを行いました。



《ソーシャルデータから読み取る花粉症の脅威と天候との関連性について》をテーマに花粉症の原因は何か、どんな花粉に影響されるか、鼻に症状がでたり、眼に症状がでる症状との関係などを“Buzz Finder”の特性を活かした極めて分析しました。

《入賞》……………千葉県立柏の葉高等学校



村井審査委員長から《あなたのつぶやきからわかる生活習慣病のリスク》の発表で《入賞》を授与される千葉県立柏の葉高等学校の船串さん、澤村さん、中島さん。



病気のリスクを減らそうと生活習慣病の関係を“Buzz Finder”で分析し、食事の“つぶやき”を健康管理に役立てるアイデアを提案しました。

《第1回データビジネス創造コンテスト》表彰式の模様

《入賞》.....芝浦工業大学柏高等学校



同じく《入賞》の芝浦工業大学柏高等学校の谷本君は、1年間かけて「Big Ri Data」というホームページを起ち上げた経験を持っているそうです。

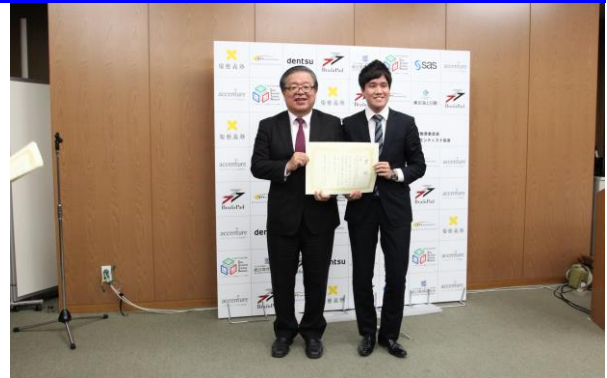


《桜の開花予報》にたどり着いたと、九州から北上する桜前線を追いかけて、「ピザと花見」をキーワードに“Buzz Finder”を駆使してリアルタイムで分析しました。

《入賞》.....東京都市大学



《ネット上のクチコミから就活生の本音を読み取る》をテーマに発表した東京都市大学の荻原君、西脇君、山下君で共に就活中の3人も《入賞》しました。



国内労働人口の減少が心配される中、離職率が高い実態から“Buzz Finder”を用いて就活生の実態を調べ、何をすべきか、就職活動への環境づくりを提案しました。

《入賞》.....立教大学経営学部



《ハピネス度を高める施策の研究》をテーマに発表した立教大学経営学部の山下さん、佐々木さん、大竹さん、岡本さん、島袋君、猿田君、江見君、浅倉さんも《入賞》しました。



“Buzz Finder”を使ってスポーツイベントおよび天候とツイート数の関連を分析し、「幸せあふれる社会の構築に役立てよう」というユニークなアイデアでした。

《第1回データビジネス創造コンテスト》表彰式の模様

《入賞》……早稲田大学基幹理工学部表現工学科河合研究室



《消費税増税による購買行動の変化》をテーマに発表した早稲田大学基幹理工学部表現工学科河合研究室の板橋君、徐君、三家さんの3人も《入賞》しました。



～コンビニ利用者の選択やいかに～のサブテーマで“Buzz Finder”の特性であるリアルタイムでデータを分析する機能を活用し、購買行動がどのように変化したのかを分析しました。

次回開催は何時……??!!



100席ほどの会場はほぼ満席状態で、《BigData Conference 2014 Spring》の一環として開催された表彰式とは言え、人が集まるのかと心配する事務局をよそに、別の会場で開催されているConferenceの参加者も続々と部屋に集まりスターと時間の午後1時半には人熱で冷房が必要な状態となりました。

村井審査委員長の開会の挨拶に始まり、分刻みで進む表彰式はほぼ計画どおり、午後2時過ぎには全ての表彰が終わり、古谷審査委員の閉会の挨拶を持って終了しましたが、実は今回55件の応募があり、早速次回開催を希望する声が寄せられました。果たして《第2回データビジネス創造コンテスト》の開催はあるのか……？

《表彰式》の後の出来事です……次回は意外と早いかも……？



表彰式終了後には村井審査委員長とNTTコムオンラインマーケティング・ソリューションズ代表取締役社長の塚本良江氏による“Buzz Session?” 短期間の内に学生の皆さんが“BuzzFinder”の特性を良く理解し、活用したことと同時に、応募者の皆さんの感性豊かなアイデアに驚かれたことなどが紹介されました。

閉会の挨拶の後、村井審査委員長が今回の《第1回データビジネス創造コンテスト》は“Buzz Finder”というソフトウェアを開発されたNTTコム・オンラインマーケティング・ソリューションズ様の強力なご支援を受け、開催に漕ぎ着けることができたことに感謝を述べました。

今回のコンテストは“Buzz Finder”を活用してインターネット上のTwitterで発信されるリアルタイムの“つぶやき”をいくつかのキーワードを用いて分析し、その中からビジネスに活用できるアイデアを考えて頂くという趣旨で企画したのだが、スピードをインターネット時代とは言え、短期間の告知、募集にも関わらず全国の高校や大学、大学院から55件もの応募があったことに、主催者として大変な驚きであったと述べました。

そして会場を提供頂いた日経ビッグデータさんの支援に感謝するとともに、本日会場にお集まり頂いた多数の皆さんに感謝する旨、挨拶しました。

また構想では毎回、ビッグデータを扱うデータビジネスについて、その可能性を探るあるいは新たな可能性を考える機会とするため、今回“Buzz Finder”を提供頂いたNTTコムオンラインマーケティング・ソリューションズのように、他の企業からもご支援を頂いて、切り口の異なる発想を誘発するようなコンテストにしたいと説明し挨拶を終えました。



そこで早速、米国で先般1日限定でグループから販売された例のウェアラブルを手にしたアクセントの工藤卓哉氏が登壇、次回は9月頃開催を目指して、企画を具体化したいとのアイデアを打ち出しました。

ということは1回だけで終わりじゃない？ということで今回、最終選考に漏れた皆さんにも、早速、次のチャンスが生まれそうですね。期待して、予告や募集に注目しましょう。



今回も慶應義塾大学の学生の皆さんはじめ、NTTコム・オンラインマーケティング・ソリューションズの皆さんなどたくさんの方々が裏方として頑張りました。